

日本癌治療学会／ファイザー公募型医学教育プロジェクト助成
「がん患者との医療コミュニケーションの向上や Shared Decision Making が
行われる環境整備を促す医療者に対する教育プロジェクト」
採択事業

支持療法アカデミック・ディテールリング研修効果に関する研究

プロジェクト概要

第3版

2022年1月～2024年12月

一般社団法人日本がんサポーターケア学会

Japanese Association of Supportive Care in Cancer (JASCC)

プロジェクト代表者：佐伯俊昭（理事長）

プロジェクト実施者：関根郁夫（新規医療情報委員会委員長）

小茂田昌代（同 副委員長）

【プロジェクト概要】

I. 背景

アカデミック・ディテリングとは、コマーシャルベースではない、公正中立な臨床と科学のエビデンスに基づく医薬品情報を医師に face to face で提供することで、処方最適化する活動であり、海外では薬剤師がアカデミック・ディテラーとして貢献している。

近年、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤など、がん薬物治療の発展により生存期間が延長したため、治療の継続には副作用をコントロールする最適な「支持療法」実施が、がん薬物療法における重要なテーマとなっている。

一方、電子患者日誌 (Electronic patient-reported outcome : ePRO) は患者のデータ入手の目的だけでなく、患者自身にもセルフケア意識を向上させるメリットがある患者と医療者のコミュニケーションツールとして期待されている。

2020 年度の診療報酬改定では、保険薬局と医療機関の地域連携を強化する加算が新設された。がん治療中の患者が、ePRO に日々自宅での症状を入力し、その情報を病院と薬局で共有できれば、薬剤師による継続的なケアとタイムリーな支持療法提案につながると考える。

II. 目的

本プロジェクト (図1) は、以下が実践できることで、薬剤師のプラクティス・ギャップ改善を図り、医師の処方を支援できる薬剤師の養成を目的とする。

- ・地域連携により患者に継続的な薬学的管理を提供し、最適な支持療法を提案できる。
- ・医師に face to face で支持療法アカデミック・ディテリングが実践できる。

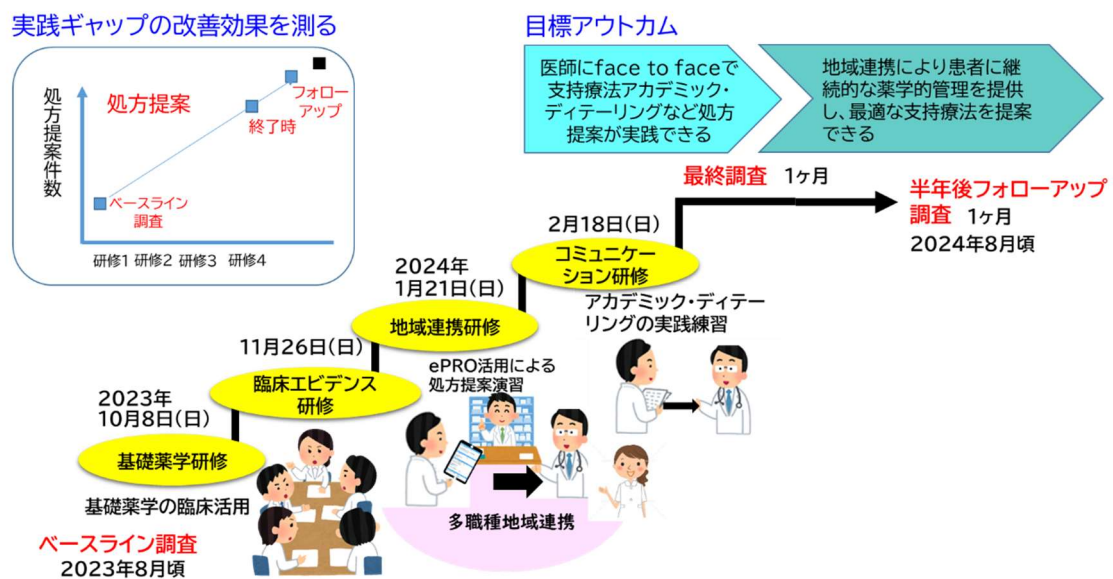


図1 プロジェクトイメージ

III. 方法

本プロジェクトは東京理科大学アカデミック・ディテリング・データベース部門が企画しているアカデミック・ディテラー養成プログラムの発展型として、支持医療に視点を当て、腫瘍内科医師と臨床薬剤師だけでなく、基礎薬学系の有機化学、生物薬剤学、薬理学研究者とさらに医療コミュニケーション研究者と、多岐にわたる講師陣の協力を得る。臨床のエビデンスだけでなく、医薬品の基礎薬学的な違いにも焦点を当てたアカデミック・ディテリングが実践できるワークショップを行う。

(研修プログラム)

- I. 医薬品の科学的特性比較に焦点を当てた研修
- II. 臨床エビデンスの批判的吟味を学ぶ研修
- III. 処方提案と ePRO 活用による地域多職種連携に焦点を当てた研修
- IV. 医師へのコミュニケーションスキルに焦点を当てた研修

(研修の効果を評価するプログラム)

<研修に参加した薬剤師のプラクティス・ギャップ改善効果に関する研究>

対象者：本プロジェクトが実施する全コースのワークショップを受講した薬剤師

(やむを得ず欠席した場合は、レポート課題提出などや補講に参加することで参加したとみなす。)

目的：本研修参加によってもたらされる、対象者による医師への face to face の行動変化を研修実施前、実施中、研修終了後、終了半年後にアンケート調査を行うなど数値化することで、研修参加によるプラクティス・ギャップ改善効果を測る。さらに研修終了半年後にアカデミック・ディテリングの実施状況調査により、実施状況に影響する要因の調査も行う。

主要評価項目：対象者による医師への処方提案数 (プロジェクト参加前後)

副次評価項目：対象者による総処方提案数 (ePRO 活用件数)、医師への face to face の情報提供回数、情報提供に要した時間 (プロジェクト参加前後) など

予定研究対象者数：全てのワークショップに参加した薬剤師 (最大 100 名)

(研修プログラムのタイムライン)

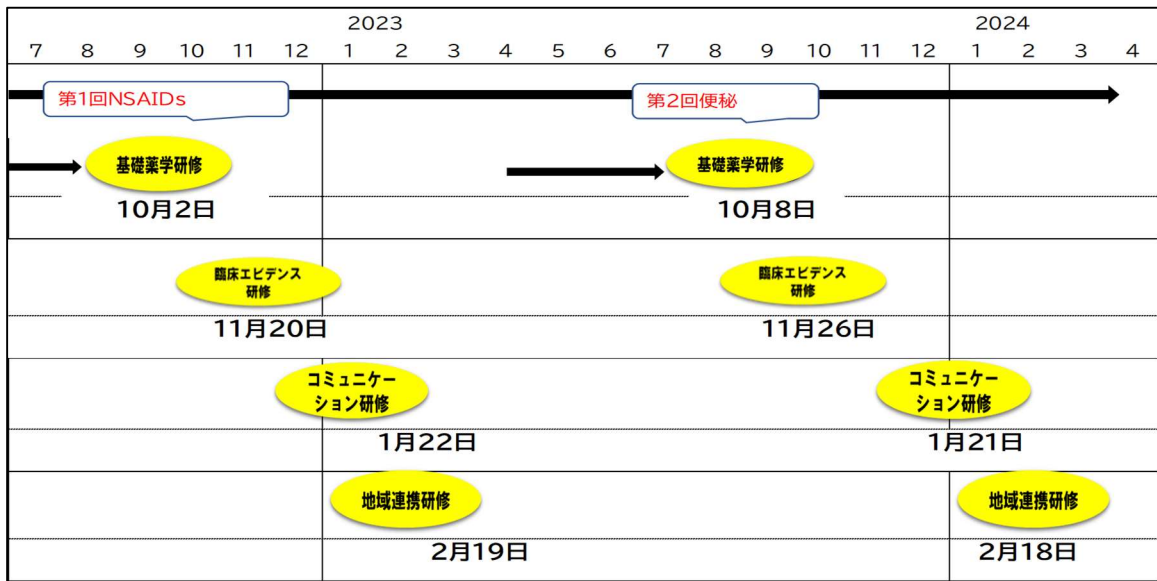


図 2. プロジェクトのタイムライン

IV. 研究組織

一般社団法人日本がんサポーターシップケア学会 (JASCC) プロジェクトメンバー

プロジェクト代表者：佐伯俊昭 (JASCC 理事長)

プロジェクト実施者：JASCC 新規医療情報委員会

委員長：関根郁夫 筑波大学医学医療系 臨床腫瘍学教授

副委員長：小茂田昌代 医療法人徳洲会千葉西総合病院薬剤部顧問

日本アカデミック・ディテリング研究会代表理事

委員：佐藤淳也 国際医療福祉大学病院 薬剤部長

西森久和 岡山大学病院 血液・腫瘍内科

宮嶋篤志 明治薬科大学講師

斎藤顕宜 東京理科大学薬学部薬理学教授

清水忠 兵庫医科大学薬学部准教授

尾関理恵 順天堂大学医学部 乳腺腫瘍学講座助教

土屋雅美 宮城県立病院機構 宮城県立がんセンター 主任薬剤師

田中 怜 静岡県立静岡がんセンター薬剤部

田村 溪 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 千葉西店

プロジェクト協力者：渡邊清高 (JASCC 教育委員会委員長)

中島貴子 (JASCCPRO ワーキング長)

プロジェクト事務局：JASCC 学会事務局

JASCC アカデミック・ディテリング評価委員会 (外部委員)

宮崎美子 医療法人社団東光会 戸田中央総合病院薬剤科 統括顧問

座間味義人 岡山大学病院 薬剤部部長
野村浩子 医療法人徳洲会大阪本部 薬剤部
稲葉健二郎 総合相模更生病院 薬剤部長
永田将司 東京医科歯科大学病院 薬剤部 准教授／副薬剤部長
出雲貴文 医療法人徳洲会千葉西総合病院 薬剤部長
小林 輝信 合同会社 Sparkle Relation フォーライフ薬局長
伊藤俊将 昭和薬科大学 教授
西川 元也 東京理科大学薬学部 教授
山根 里香 国際基督教大学アーツ・サイエンス学科 准教授

パートナーとなる団体（施設）

施設名称：東京理科大学研究推進機構総合研究院アカデミック・ディテリング・データベース部門（2021年度で部門終了、2022年度より一般社団法人日本アカデミック・ディテリング研究会（JAD）が部門活動を継承）

役割： アカデミック・ディテリング資材開発や資材提供、研修の企画と運営

2022年9月に「アカデミック・ディテラー養成プログラム」実施について、JASCCがJADに委託する契約が締結された。